

自分のため、みんなのために時間を守ること

校長 青木 あゆ子

朝晩の冷え込みが強まってきて、学校近辺の木々も色鮮やかになってきました。寒くなると眠くなったり、朝起きるのが辛くなったりするせいか、8時30分の開始時刻に間に合わない児童が増えてきました。そのため、職員室には「〇〇さんが来ていないので、家庭への連絡をお願いします」という内線電話が鳴り、「今、門をくぐりました」とか「今日はお休みだそうです」などのインターフォンの声が続きます。川崎市の学校でミマモルメが導入されてからは少なくなりましたが、以前は教頭や教務主任、事務職員など1時間くらい電話の対応に追われていました。

また、授業に遅れてくる子には担任が対応しなければならず、授業の流れが止まってみんなを待たせてしまうこともあります。みんなで気を付けて遅刻をなくしていきたいと考え、先日の朝会では、次のような話をしました。

「もし1回の授業で何かの遅れのために5分無駄にしてしまうことが6時間分の授業の中で起こったら、1日で30分間みんなの学習時間がなくなってしまう。それが一年間の授業日数である200日分だとしたら、一年間で100時間の学習の差になってしまう。自分だけの時間ならばまだいいけれど、そのことでほかの人の時間を無駄にすることになってしまったら・・・。誰にとっても時間は、二度と戻ってはこないもの。今、という時を大切に、自分のためにもみんなのためにも、始まりの時間を守りましょう。」

何年も前のことになりましたが、いつも学校に遅れてくる児童がいて、担任も学校の教職員も「いつものことだ。また遅れてくるだろう。」と家庭に連絡しないでいたら、不審者に襲われていたという事件がありました。通勤や通学の時間帯を過ぎると、案外住宅街でも人通りが少なくなるものです。また8月の台風10号で土砂災害警戒情報が出た日には、児童全員の所在が確認できるまで2時間くらいかかってしまい、その後の対応の遅れにつながりました。

ご家庭にもぜひお願いしたいのですが、遅れたり欠席したりする場合は必ず送ったり学校に連絡を入れたりし、早退する場合は必ずお迎えに来ていただければと思います。

今月も、学校、家庭、地域の皆さまと共に、子どもたちの安全を守り、学習時間をしっかりと確保していきたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

川崎市制100周年 豆ちしき④

川崎市ブランドメッセージ『Colors, Future! いろいろって、未来。』をご存じですか。

100周年の歴史的な節目は、「あたらしい川崎」を生み出していくスタートラインです。

150万人を超える多くの人が行き交い、多様な文化が根付き、新しいものに寛容な風土がもたらした「多様性」こそが川崎市の発展の源泉、ということを表現しています。